

令和4年7月12日

医療的ケア児・者の生活を支えるために必要なことについて まとめ

令和3年度 第3回医療的ケア委員会で「医療的ケア児・者の生活を支えるために必要なことについて」各委員からそれぞれの立場で話をいただきましたが、その内容を深めるための時間が持てず、今回その機会を持ちたいと思います。

- ①医療度の高い方が卒業されてから社会と繋がりにくいと思うことが多い。
社会的にどういう繋がりがあるのか。
- ②支援学校のスクールバスに乗れないので家族が送迎をしている。家族の負担が大きい。
- ③訪問看護は自宅でしかつかえないルールだが、場合によっては自宅以外でも使えるようにしてほしい。
- ④看護師の確保ができず保育所の利用が進みにくい。
- ⑤災害時の個別避難計画の進み具合について。災害時、スムーズに避難できるのか。
- ⑥対応できる支援者を育てていくことが大切。
- ⑦訪問入浴が足りていない。週1回しか利用できない。
- ⑧就労時に重度訪問介護が使えない。京都市は9月から重度障害者等就労支援特別事業が始まっている。
- ⑨3号研修を修めたが、支援者も支援に入っていないと忘れていく。

追加⑩支援校跡地の共生型福祉施設構想 短期入所2名は少ない。委員会として要望してほしい。